

平成28年度 九州中学校サッカー競技大会 申し合わせ事項

- 1 (公財)日本サッカー協会制定の《2016-2017サッカー競技規則》及び本大会要項を適用する。
- 2 競技者は競技規則を遵守し、監督やコーチもフェアプレーを第一に考えて試合に臨む。
 - (1) ベンチマナーに留意すること。
 - (2) ベンチに入ることができるのは、登録された引率者1名、監督1名、コーチ1名、交代要員7名の計10名以内とする(選手以外は指定の確認証を携帯する)。交代要員以外の生徒・応援団・保護者等は、ベンチと反対のタッチライン側で応援すること。管理職については、本部席での観戦をお願いする。
 - (3) チーム帯同のトレーナーについては、監督の申し出により制限区域外での治療を可能とし、選手はプレー続行可能であればピッチにもどることができる。ただし、会場役員が付き添うものとする。また、その試合に対しての指示等はしないこと。
 - (4) プレーに関する事実について、主審の決定は最終である。プレー中における審判の判定に対する異議がないようにすること。また、審判員に対する批判や中傷について、報道関係を含め慎むこと。
 - (5) 主審は、ベンチから判定に対する異議や不服とみなされる言動があった場合、役員を退席させたり、交代要員を退場させることができる。
- 3 メンバー表およびユニホームについて
 - (1) メンバー表の提出は、試合開始30分前までとし、各会場の大会本部へ提出して承認を得る。
 - (2) ユニホームについては、70分前に正・副(異色)とも本部に持参すること。ユニホームが同色の場合は、主審立会の下、協議を行い、主審の決定に従う。
- 4 ウォーミングアップについて
 - (1) フィールド内でのウォーミングアップについては、試合開始直前の3分間とする。ハーフタイム(10分間)のウォーミングアップについては、試合中のチームのみとする。
 - (2) 試合前のウォーミングアップについては、指定のウォーミングアップ会場のみとする。
- 5 試合について
 - (1) 試合開始10分前に、選手の確認と用具の点検を行い、不備な点があっても試合開始は遅らせない。何らかの理由で試合が延びて次の試合時刻を越えた場合、その試合終了10分後に次試合を開始する。
 - (2) 延長戦やPK方式による次回戦進出や上位のチームを決定する際、選手はフィールドから出ずに休憩・飲水し、監督から指示を受ける。その際交代要員は、競技者と区別できるようにすること。
 - (3) 警告や退場については、大会要項通りで、退席になった役員の処遇についてもそれに準ずるものとする。なお、大会規律委員会は、会場責任者・審判委員長・開催県中学校体育連盟会長及び理事長・九州中学校体育連盟サッカー競技専門委員会で組織する。

- (4) 選手の交代についても、大会要項通りに行う。ただし、GKが負傷し交代を余儀なくされた際に、フィールドプレイヤーがGKとして試合に出場する場合でも、同じ番号のGKユニホームを着用すること。
- (5) 負傷した競技者については、主審の判断により当該チーム役員1名をフィールド内に入れることができる。その場合、水の持ち込みは良いが、スプレー等での治療はフィールド外で行う（GKは除く）。負傷などにより主審の許可を得てフィールドから退いた競技者が再入場する場合は、主審の許可を得てから入場すること。
- (6) 競技中の水分補給については、あらかじめ準備された柔らかい容器をタッチライン又はゴールラインから1 m以上離れた場所に置いておき、タッチライン又はゴールライン上で飲水すること。容器の中身は水のみで、保冷の為に小さめの氷を一緒に入れておくことは認める。但し、会場の許可が得られれば、熱中症対策としてスポーツドリンクの飲水も認める。
- (7) テクニカルエリア内では、本大会が認めたベンチ内の役員に限りその都度1名が戦術的指示を与えるために出ることができる。その際、責任ある態度で行動すること。
- (8) 試合終了後の握手については、スムーズな大会運営を考慮して、自分の前に並んだ選手との握手を実施する。

6 競技者の用具について

- (1) スパッツを着用する場合は、主な色がショーツの主な色と同色とする。
- (2) ミサンガ、ギブスなど装飾品や固定具をつけての出場は認めない。やむを得ない理由がある場合は、事前（監督会議時）に連絡し、了承を得てからのみ出場を認める。
- (3) すね当ては必ず着用し、ストッキングに覆われていなければならない。PK方式による次回戦進出や上位チームの決定になった場合でもはずすことは認めない。
- (4) ストッキングは膝下まで、シャツはショーツにきちんと入れて競技を行うこと。

7 施設使用上の注意事項

- (1) 会場内は禁煙。
- (2) ゴミは各自で持ち帰る。
- (3) グラウンド、トイレ等の施設ではエチケット・マナーを守って利用すること。

8 熱中症対策について

- (1) WBGT=25℃以上の場合は1分間程度の「飲水タイム」を、WBGT=28℃以上の場合は3分間の「Cooling Break」を行う。
- (2) 「飲水タイム」もしくは「Cooling Break」を設定する場合は、試合開始7分前の本部席集合時を目安に両チームにその旨を知らせる。
- (3) 「飲水タイム」および「Cooling Break」の定義については、(公財)日本サッカー協会が策定した熱中症対策ガイドラインに示されたものに沿う。
- (4) 「飲水タイム」はあくまでも飲水のための時間であるが、「飲水タイム」時に体を冷やす目的でスポンジとタオルの使用を認める。ただし「飲水タイム」時に、ミスト（霧吹き）を使用することやひしゃくでバケツの水をかけること等は、時間がかかるので認めない。
- (5) 「飲水タイム」および「Cooling Break」とは別に、従来どおり、ボールがアウトオブプレーのときに、ライン上で飲水できる。

- (6) 飲水に関し、ピッチ内・ベンチ内で水以外にスポーツドリンクを飲むことができる。
- (7) 延長戦に入る前には、3分間のインターバルをとる。またPK方式により次回戦に進出するチームを決定する場合には、1分間のインターバルをとる。いずれの場合も選手はベンチに戻り休憩することを許可される。

9 その他

- (1) アディショナルタイム表示は行う。
- (2) 競技中に交代要員がアップを行う場合は、ベンチの脇とし、競技中の選手と異色の服装でボールを使用せずに行うこと。アップをしていない時はベンチに座ること。
- (3) トーナメント表の左側のチームが、フィールドに向かって左側のベンチとなる。
- (4) 応援の際に使用する鳴り物（太鼓・メガホン等）については、主審の笛の合図の妨げとならないように配慮すること。明らかに妨げと判断した場合は、本部より使用の禁止を申し出ることもある。